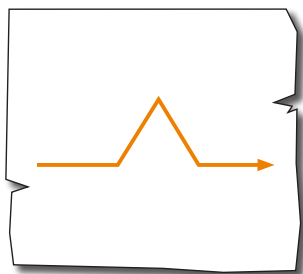


7 THE 7 FRAMES FOR All LIFE

7つのワクワク枠

みんなのコンパス②

第7フレーム



木岬 さんぽ
KIMISAKI SAMPO

究極の意味を 見つけるんだ！

恋人^る瑠音^ね、おじいさん…と愛し合う
青年期さんぽのフルーツフル果実物語

SAMPO FRUITS



みんなのコンパス②



プロローグ

202

大学2年目の初夏——

僕は、また一緒に、おじいさんに会いに岬へと向かった。

それまでの発見で溜音は十分満足していたようで、「これらが究極の意味かもしれないね♪」と言っていた。

もちろん、それまでの発見も、とてもよい発見だと思った。

でも、内心——

これらの意味に、あのおじいちゃんがたどり着けなかったとは考えにくいのではないかな？

そんな気がして、僕は物足りなさを感じていた。

「この急な上り坂って—— ハア、ハア… 何度来ても、きつくてイヤだね。ほんとイヤなっちゃう～」坂を上りながらの彼女。

「“イヤイヤ”言うなって——。よけいイヤに思えてくるだろ？」と僕。

「だって、イヤなんだもん。ハア、ハア…」

「ちょっと休もうか？」

「ううん、大丈夫。ありがとう。ハア、ハア…」

思ったんだけどさあ。こんなに坂がきつくてイヤなのに、それでも坂を上るっていうのは—— おじいさんに会いたい気持ちが、急な坂を上るのがイヤという気持ちより、まざっているからよね？

ハア、ハア…」

「そうだね。——うん。人生、“100%好き”とか“100%いい”とかだけで成り立っているとは限らないんだね」

「ホント、微妙なことってあるよね。ハア、ハア…」

実際の人生では——。ハア、ハア…」

「——確かに、好きキライ、よい悪い…が、それぞれ微妙な比率関係で成立しているときもある。だから、ときに迷ったり躊躇したりもするし—— ときに動きがとれなかったりもする」

「そうね。ハア、ハア…」

「それでも、ときには、思いきって何かのアクションを取ること、その結果に応じた新たな別のアクションを取ること… が必要になったりして——」

「——ええ、そうね。ハア、ハア…」

坂を上りきると——

なだらかな下り勾配の先に、キラリが見えた。

その認識は、それまでの僕らの疲れを、一瞬で吹き飛ばしてくれた。さわやかな海風とともに——

203

ふたりで駆け下りた先に待っていたキラリの正体は、1本のピン
だった。——手紙？

その中身は、1枚の手紙と1枚の図だった。

孫 or ひ孫のような君へ

また来てくれて、ありがとう。

おまえさんが、これを読んでくれておる頃、わしは
航海の真っ最中のはずじゃ。

近頃、航海に、はまってしまってお。

究極の意味が、わかったかどうかじゃって？

それには、もう1枚の図がヒントになるはずじゃ。

健闘を祈る。

それじゃ。元気でな。

くれぐれも、かわいい彼女にもよろしく。

幸せに生きるんじゃぞ。

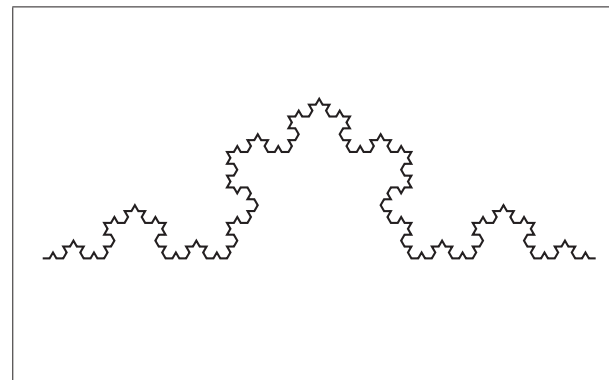
岬のおじいさんより

音楽フェードアウト ♪航海 Voyage

「フッ♪ かわいい彼女だって——」 照れる溜音。

僕は、もう1枚の図を広げてみた。

ランプベリーのように、のぞき込む溜音——。



「不思議な形——」 彼女がポツリと口にした。

「ああ」 確かに不思議だった。——なんだこりゃ？

でも——

このとき、僕は、とてもワクワクしていた。

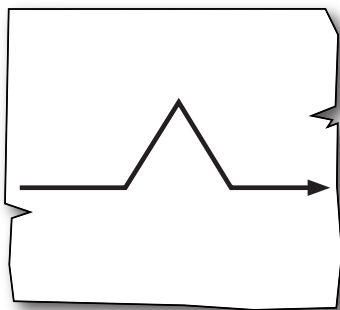
この図のナゾを解きたい！ これをヒントにして、究極の意味を
みつけるんだ！

そして、この究極のカギで、ライフのパズルを解くんだ！

音楽——テーマ曲イン
♪ハーモニー Harmony
タイトル流れて。
——音楽フェード・アウト

204

第7フレーム



その熱意とは裏腹に、何の成果も得られないまま、とうとう夏休みに入った。

音楽イン ♪夏 Summer

夏休み3日目、街の書店へ向かって一緒に歩いている瑠音と僕。

「究極の意味——」 僕のつぶやき。

「もう、ずっとそればかり。フッ♪」 彼女のフォロー。

瑠音は相当あきれていたらしい。

でも—— 実は、彼女への誕生日プレゼントを計画していた。

そのために近くのスーパーでアルバイトをさせてもらっていた。

仕事内容は、朝早く特殊なトラックで運ばれてきた牛乳やヨーグルト、スイーツやアイス、豆腐や納豆などの商品を店内の各コーナーに陳列することで—— それは“品出し”と呼ばれていた。

本屋に着いた。

「じゃあ、こっちは、まず新刊書コーナーや雑誌コーナーあたりを見たら、そのあと詩集コーナーに行っているね」と瑠音。

「了解。こっちは、いつもの場所に行っているよ」

いつもの場所—— 専門書コーナーに僕はたどり着いた。

生命科学—— 分子生物学、細胞生物学、分子発生物学、分子遺伝学……

——何か、いい本がないかなあ。

しばらくの間、平積みされた本の表紙のタイトルたちを眺めた。

それから、気になる一冊を見つけた僕は、その本に右手を伸ばした。

すると、その最中に、突然、左腕がグイと引っぱられた。

音楽急停止 ♪夏 Summer

！？ 見ると、そこに瑠音が立っていた。

「え？」 思わず疑問の声を上げる僕。

「いいから来て。こっち——」 雑誌コーナーまで僕の手を引いた彼女は、そこにあった“現代用語事典”の最新刊を手にとると、ペラペラとめくり始めた。あるページを開くと注意を促した。

「ほら、見て」

その瞬間、僕は目を大きく見開いた。

「あっ！」 思わず驚きの声を上げた。

そこには、おじいさんの手紙に添えられていたあの図形が、そっくりそのまま載っていたのだ。

それは、“フラクタル”の項目にあった。

「フラクタル——」・・・「どうやってこれを——」

「ある事柄について試しに調べてみたくなって、ペラペラをめくっていたの。そしたら、これが、いきなり目に入ってきて——」

「何について調べていたんだい？」 思わず彼女に尋ねた。

「——。フラ—— ダンス？」 彼女は、気恥ずかしそうに告白した。

一瞬—— 瑠音が、ほんわりとフラダンスを踊っている姿が、心に浮かんだ。

「——」・・・「——あ、ありがとう」 でかした！

205

瑠音にしてみれば、“火に油を注いだ”ことになるのだろう。

フラクタル——

そのキーワードとの出会いがきっかけとなり、フラクタルと関連する文献——コッホ曲線、自己相似性、カオス、複雑系、非平衡開放系、自己組織化、進化、脳科学、神経系の可塑性、認知科学…などのキーワードを含む文献を、次々と読みまくることとなった。

この“自分の視野を広げる読書体験”は、いわば“マイ・ブックサーフィン”だった。

それは同時に、“人類の叡智の森の果実たちを探索する旅”でもあった。僕は、そのフルーツ探索の旅に熱中した。のめり込んだ。7つのワクワク枠が提供してくれるコンパスをしっかりと持ち続けながら——。

瑠音は、そんな僕を応援してくれる一方で、「無理しないでね」と僕の健康のことを気遣ってくれた。

でも——

秋が深まりつつあった頃、体調を崩したのは、彼女の方だった。

音楽イン ♪秋 Autumn 206 に続く

206

「ゴホッゴホッ。バカね。自分の方こそ、健康に注意しなさいって感じよね？ 試験が重なってストレスフルだったから、なおさら。試験が無事済んだのは、よかったけれど——」と瑠音。

207

とにかく僕は看病した。夕方、彼女のアパートにて——
 「あなたに、うつしや悪いわ」と言っ、初果陽家秘伝の水で濡
 らしたテッシュ&ペーパータオルを挿んだ加湿マスクを着用しなが
 らベッドで横になっている彼女と、「私から、うつされませんよう
 に」と言われて同じ加湿マスクを着用させられながら、そばのイス
 に座っている僕。

「あっちの方は、どう？ ——フラ、クタル？」 彼女が口を開いた。
 「ああ、なんとか—— っていうか、今は、それどころじゃないだ
 ろ？ 今は自分の体のことを心配しているんよ」

「——はい。アハッ♪ ありがとう」
 ピピッー、ピピッー。体温計が鳴った。
 体温計を腋の下から取り出して確認した彼女は言った。「36度8
 分。大したことなさそうで、よかった——」

「まずは一安心だね。——まあ、でも、念のため、もうしばらく休
 んでいた方がいいと思うよ」と僕。

「——ええ、そうね。——。でも——」

「ん？ どうしたの？」

「うん。一安心したら、お腹ペコペコ度 Max 状態？」

ずっと食欲がなかったから—— こししばらく、食事らしい食事
 をほとんど摂ってなくて——」

「ええ！？」

音楽フェード・アウト ♪秋 Autumn

それから、誕生日が迫っていた、お腹ペコペコ度 Max 状態の溜
 音に、特製バースデーパンケーキを提供するために、フルスピード
 で台所で格闘した。

「あっちい！！」 急いで指を水道水で冷やした。

「——大丈夫？」 ベッドからの彼女の声。

「大丈夫、大丈夫。余裕さ。アハッ。——決して見に来ないんよ。

そのまま休んでいるんよ。できあがったら、すぐ知らせるから」

「ええ、わかったわ。——なんだか『鶴の恩返し』みたい」

そして——

「ジャン！ 堂々の完成！♪」 そう言いながら、できたての“ア
 イスクリーム・オン・フルーツ・イン・ヨーグルト・オン・パンケーキ・
 フォー・溜音”を、彼女が待っているテーブルまで運んだ。

「うわー、おいしそう♪」 マスク越しの、笑みあふれる溜音の顔。

「だろだろ？」

いちご、ブルーベリー、みかん、りんご、バナナ、アイスクリー
 ム、ヨーグルト、牛乳、卵、ホットケーキの素——あらかじめパイ
 ト先のスーパーで買って準備しておいた材料を主に使って、彼女の
 アパートにあった材料も適度に交えながら、作ったケーキだった。

溜音は、テーブルの上のケーキをまじまじと見つめ続けた。

なぜか食べようとしない彼女を見て、僕は思わず尋ねた。

「どうしたんだい？」

「困った～。どうしよう～」

「何か、苦手な食材が入っていたとか？」

「ううん、そうじゃなくて、ケーキを食べたいのは山々なのよ。でも、ケーキを食べるためにはマスクを外さなければならなくて、それだと、あなたにカゼがうつるかもしれない。ああ、困った——」

僕は、思わず一瞬心笑んだ。「大丈夫。大丈夫。何も話さず黙々と食べればいいんだよ。こっちはマスクを着けているし」

「そう？」と言いながら、小さく首をかしげる溜音。

「そう」と言いながら、大きくうなずく僕。

「それでは—— お言葉に甘えて—— いただきます」

溜音は、おずおずと、マスクを外すと—— フォークを使い、黙々とケーキを食べ始めた。モグモグモグ…

しばらくすると、彼女は、急いでマスクを着けてから口を開いた。

「——おい—い！ とっても、おいしいよ！ ——シアワセ♡♪」

「よかった♪ “スペシャル・デラックス・アイス・オン・フルーツ・イン・ヨーグルト・オン・パンケーキ・フォー・溜音”と呼んでくれたまえ♪ アッハッハッ！」

208

ケーキを食べ終えて満足してくつろいでいる溜音 with 加湿マスク & 僕 with 加湿マスク——。

「カゼの予防や治療に役立つこととして、十分な睡眠や休養、適度な栄養摂取や絶食、適度な水分摂取、保湿や保温、手洗いやマスク

の着用…は、もちろん挙げられるけど、さらに、ほどよくリラックスしてストレスをためすぎないことも挙げられるよ」と僕。

「そう聞くわよね。それって、どうしてなのかしら？」と彼女。

「適度にストレスが解消されているおかげで、免疫細胞たちの働きが、ほどよく保たれるからだよ。」

それは、免疫細胞たちの数や性質がほどよく保たれるからだけでなく、末梢の血流がアップして、それらの体の中の分布がほどよく保たれるからでもある——

「ふーん。——免疫細胞ってさあ、カゼのウイルスとかを、やっつけてくれるんでしょ？」

「そうそう、その通り。それらの免疫細胞たちは、いろんな種類で構成されていて—— 協力し合いながら、カゼのウイルスとかから、体を守ってくれているんだ」

「ウン——」

「だから、免疫力をほどよく保ってくれるような“過剰なストレスの解消”なら、どれもカゼの対策として有効だと思うよ」

「例えば？」

「例えば、もし疲れてヘトヘトだったら、なおさら、十分な睡眠や休養が有効だろうし—— もし大好きな趣味を楽しみたいのを我慢して欲求不満がたまっていたら、その趣味を楽しむことが有効だろうよ」

「つまり、個人差がありうるのね」

「そう。そういう意味では、カゼ対策にも相性がありうるんだよ」

「——ウン」

「——そうそう、もし、過度の空腹のせいで、フラフラしていたり、力がなくなっていたり…体調がおかしくなっているならば、適度に栄養を補給することが有効だろうよ」

「うん♪ ああ、おいしかったあ♡ 私、幸せ者だわ。満足、満足」

「それから、これ——」僕はポケットから小さな箱を取り出した。

「なあに？」

「ちょっと早いけど、誕生日プレゼント——」そう言いながら、その小さな箱を彼女に差し出した。

「え？」彼女は、おずおずと受けとった。「——ねえ、中を見てもいい？」

「ああ、もちろん」

209

瑠音は、箱を開けた。

その中から顔をのぞかせたのは、丸みを帯びた金属の輪郭に、淡いピンク色の宝石がはめ込まれている小さなペンダントだった。

「うわ～、かわいい～。——ありがとう。うれしい」

「——ごめんよ」

「え？何が？」

「——。だから——試験だけでなく、僕のせいもあって、ストレスフルさが助長されて——そのせいで、カゼをひいてしまったのかなって思ったから」

「——」

「最近、確かに“究極の意味”探しに夢中になりすぎて、きちんと力になってあげていなかったような気がする。こっちは力をいっぱいもらっていたのに。——だから、ごめん」

しばらくの間、瑠音は視線を外していた。

かと思うと、口を開いた。「——フッ♪ お互い様よ」

「え？」

「私も、あなたから、いっぱい力をもらっていたわ。あなたの存在が、つらい試験勉強を乗り越えるための心の支えになっていた——。有意義なことに熱中して、少年のようにイキイキしているあなた——。そんなあなたが——好き」

「——」・・・

「早いとこ、発見しちゃって？ 究極の意味をサクッと見つけて、私を早く安心させて？ 私が、いっぱい、いっぱい笑ってられるように。——アハッ♪ クヨクヨしているより、気持ちよく笑っている方が、免疫力って、ほどよく保たれているんでしょ？」

「ああ、まあ——」

「——ああ、スペシャル・パンケーキおいしかったあ！こんなに幸せになれるのなら、年に10回くらいカゼひきたいよ～♪」

「——っていうか、このパンケーキには、バースデーケーキの意味があるんだぜ」

「え！？誕生日がくるだけでも、このケーキを食べられるの？」

「だったら、年に11回も食べられるってことよね？ やったあ♪」

「よ～し、こうなったら潔く腕によりをかけて、ケーキを作りまく」

るぞ〜！」^{きあ} 気合いを入れるしぐさをしながら^い言った。

「アハハハッ！♪」とびつぎりの^え笑みがこぼれているのがマスク
越^こしても、はっきりわかった。

210

音楽イン ♪ Reconstruction

それから^{ぼく}僕は、^{だいがく}大学のノルマの^{あいま}合間を縫^ぬって、^{しら}調べて、^{しら}調べて、
調^{しら}べて——^{まな} 学^{まな}んで、^{まな} 学^{まな}んで、^{まな} 学^{まな}んで——^{ほり} 掘^{ほり}り下^さげて、^{ほり} 掘^{ほり}り下^さげ
て、^{ほり} 掘^{ほり}り下^さげて——^{かんが} 考^{かんが}えて、^{かんが} 考^{かんが}えて、^{かんが} 考^{かんが}え抜^ぬいたんだ。

^{ほん} 本^や屋^{ほん}さんの本——

^{としょ} 図^{かん} 書^{ほん}館の本——

ノート——

メモ用紙——

パソコン——

…

^{かつ} 活^{よう} 用^{かんが}しながら考^{かんが}え——

^き 着^{かんが} 替^{かんが}えながら考^{かんが}え——

^た 食^{かんが} べながら考^{かんが}え——

^{ある} 歩^{かんが} きながら考^{かんが}え——

^か 書^{かんが} きながら考^{かんが}え——

^ゆ 湯^{かんが} ぶねにつかりながら考^{かんが}え——

シャワーを^あ浴^{かんが} びながら考^{かんが}え——

ベッド上^{じょう}で、日^{にっ} 中^{ちゅう}、仰^{あえ} 向^む けになりながら考^{かんが}え——

ベッド上^{じょう}で、夜^よ 中^{なか}、入^{にゅう} 眠^{みん} しながら考^{かんが}え——

ベッド上^{じょう}で、起^き 床^{しょう} 前^{まえ}、朝^{あさ}の陽^{よう} 光^{こう} を浴^あ びながら考^{かんが}え——

…

クリスマスが^す過^す ぎ——

お正月も^す過^す ぎ——

バレンタインデーも^す過^す ぎ——

そのまま雪^{ゆき} 解^と けの季^き 節^{せつ} も過^す ぎ——

そして、桜^{さくら} が咲^さ き始^は める季^き 節^{せつ} の、あ^あ り日^{にち} 曜^{よう} 日^び ——

ついに、この^ず 凶^と のナゾが^{おも} 解^と けたと思^{おも} えるほどの^{せい} 成^か 果^{たつ} に達^{たつ} したんだ。

音楽終了 ♪ Reconstruction

その^{せい} 成^か 果^{たつ} に達^{たつ} した、^{よろこ} 喜^き びとい^き うか、^き 気^も 持^も ちよ^き さとい^{たつ} うか、^{たつ} 達^{せい} 成^{かん} 感^{かん}
とい^{せい} うか…その^{かん} 感^ど 動^{ほん} は半^{はん} 端^ぽ じやな^な かった。

音楽イン ♪ Joy of Life

^{じてん} 自^{しゃ} 転^と 車^と を飛^と ばし——

真^ま っ先^き に、^る 溜^ね 音^{おと} のア^あ パ^ぱ ー^と に、た^つ どり着^つ いた。

「ついに、この^ず 凶^と のナゾが^と 解^と けたよ！ す^す っげえ、う^う れしい！

ハア、ハア…」

「ええ？ すごーい！ ねえ、ねえ、^{わたし} 私^は にも早^{はや} く^{こた} 答^{おし} えを^{おし} 教^{おし} えて？」

「ああ、もちろん。ハア、ハア… ちよ^ま とつ^ま 待^ま ってくれ。ハア、ハア
… ——あ^あ れえ？」ヨ^よ ロ^ろ リとバ^ば ラ^ら ンスを^を く^く ず^ず した^{した} 僕^{ぼく} は、そ^そ の^の ま^ま ま、
ひ^ひ ぎ^ぎ ま^ま ず^ず い^い てし^し ま^ま った。

「大丈夫^{だいじょうぶ}？」

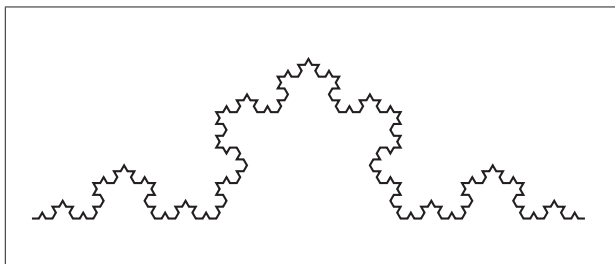
「ああ、大^{だい} 丈^{じょう} 夫^ぶ、大^{だい} 丈^{じょう} 夫^ぶ！

——^{じてん} 自^{しゃ} 転^と 車^と を飛^と ばし^し ず^ず ぎ^ぎ ち^ち ま^ま っ^つ て。ア^あ ッ^っ ハ^は ッ^っ ハ^は ッ^っ ！」

音楽 ♪ Joy of Life 211 に続く

一息ついてから、その成果の披露を始めた。

まず、おじいさんにもらった図の説明から――



「この図形はコッホ曲線と呼ばれているんだ。これはフラクタルの一種で、フラクタルとは“自己相似性”を持つ存在のことさ」と僕。

「――自己、ソウジセイ？」と瑠音。

「そう。自己、相似性」

「――自分で自分を、きれいに掃除する性質？」

「その掃除でなくて、“相互に、サイズを超えて似ている”という意味の相似さ。

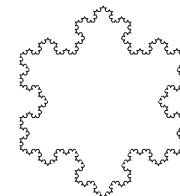
つまり、自己における、内側の部分と外側の全体が、お互いに、サイズを超えて似ているという性質こそが、自己相似性なんだよ」

「――へえー」

「この“自己相似性”を持っている例は、自然界に、いっぱいあるんだよ。例えば、雲のモクモク、海岸線のギザギザ、山のデコボコ、川や樹木の枝分かれ、雪の結晶――。どれも、自己における、内側の部分と外側の全体が、相似になっているのさ。

例えば、このコッホ曲線を3つ組み合わせてできるコッホ雪片

も、どことなく本物の雪の結晶っぽいつしょ？」



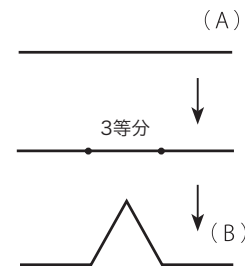
「本当だ。不思議――」

「これが本物の雪の結晶っぽいの、自然界にある本物の雪の結晶が“自己相似性”を持っているからこそなんだ」

「へえー」

「この自己相似性は、コッホ曲線の作り方を見れば、より理解しやすくなるはずだよ」

僕はメモ用紙を広げて、ペンを持った。「まず、1本の線があるとする(A)。次に、その線を3等分し、その真中の線分だけを2本にして最終的にトンガリ山を作る(B)」



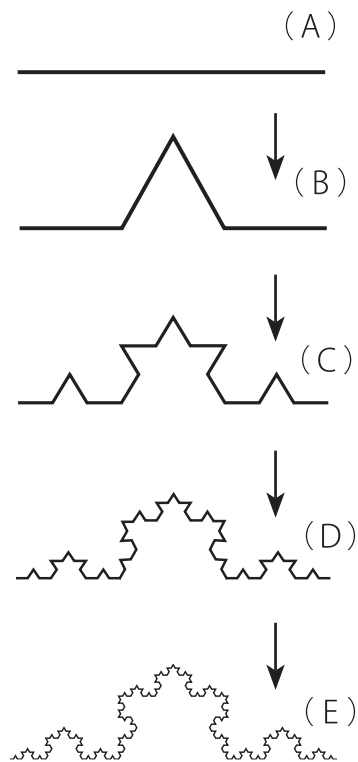
「あっ！ 第7フレームと似ているね？」

「そうそう。そうなんだ。」

それで、コッホ曲線を作るためには、この作業をずうーつと繰り返せばいいんだよ」

「ずうーっと？」

「そう。ずうーっと——



——ほら！ こここまで来ると、おじいちゃんに、もらった図と同じになる」

「あつ、本当だ！」

音楽 ♪ Joy of Life 212 に続く

212

「このようにして、フラクタルの1例であるコッホ曲線ができてい
るおかげで、不思議でおもしろいことが起こるんだよ」と僕。

「不思議でおもしろいこと？」と瑠音。

「そう。想像してみて欲しいんだけど、
例えば、この部分をズーム・インして、
詳しく見たとするよね？」図の左側の
一部※を指で囲いながら言った。

「うん」

「すると、あら不思議！

——そこにあるのは、元と同じ形なのさ！」

「うーん。——。——あつ、そうよ！

ずうーっと繰り返すんだもんね。

アハッ♪ おもしろい♪」

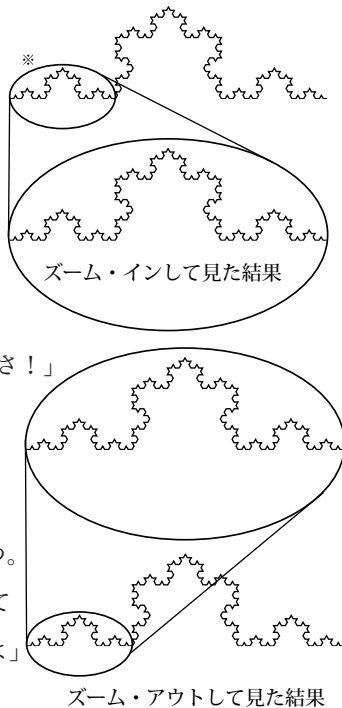
「だろだろ？ もちろん、逆も成り立つ。

ある全体をさらにズーム・アウトして
おおざっぱに見ても、元と同じ形になるよ」

「はあー！」

「で、このような性質、“ある部分をズーム・インして見ても同じ形、
ある全体をズーム・アウトして見ても同じ形”という性質こそが、
自己相似性の、より厳密な意味なのさ。

つまり、フラクタルとは、厳密には、このズーム・インしてもズーム・
アウトしても同じ形があるという意味の自己相似性を持っている存
在のことなのさ」



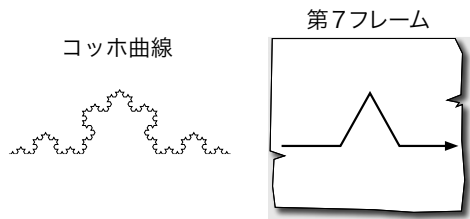
「ふーん。——そうすると、^{げんみつ}厳密には、このズーム・インしてもズーム・アウトしても同じ形があるという意味の自己相似性を持っている存在のことであるフラクタルが、自然界で、さまざま見つけられるのね？」

「そうさ。例えば、雲のモクモクの形。あの一部を、ズーム・インして見ても、やっぱり同様なモクモクの形がある。もちろん、逆にズーム・アウトして見ても、同様なモクモクの形。

例えば、海岸線のギザギザの形。あの一部を、ズーム・インして見ても、ズーム・アウトして見てもやっぱり同様なギザギザの形がある。それは、山のデコボコ、河川や樹木の枝分かれ、雪の結晶…どれも同じなんだよ」

「ええ、そうね」

「それで—— コッホ曲線と第7フレームを繰り返し見比べたのさ。



そしたら、ひらめいたんだ。

きっと、第7フレームも自己相似性を持っていて、フラクタルの1例なのだろうって——。

それで、そのように仮定しながら、さまざまな知識や文献の内容、さまざまな体験にあてはめてみたら、まさにそうだったのさ！」

「ええ!？」

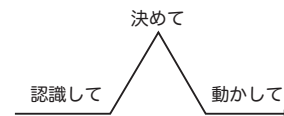
音楽フェードアウト ♪ Joy of Life

213

音楽イン ♪心地よき日々 Comfortable Days

「まずは、人間レベル——

それは、“認識して、決めて、動かして”などの3つのステップの流れ。大学1年生のときに僕らが一緒に、さまざま挙げた例にあてはまるレベルのときさ。覚えていて？」と僕。



「ええ、よく覚えているわ」と溜音。

「それで、ここからは、この“3つのステップの流れ”のことを、シンプルに“3ステップス”と呼ぶことにするよ。その方が、より正確で便利だけでなく、カッコいいから」

「フッフ。そうね」

「それで、第7フレームが、自己相似性を持っているフラクタルの1例であるということは、この人間レベルの3ステップスからズーム・アウトして見ても、ズーム・インして見ても、同じような3ステップスがあるってことなんだよ。

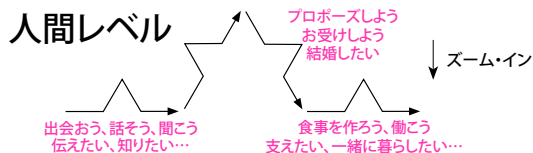
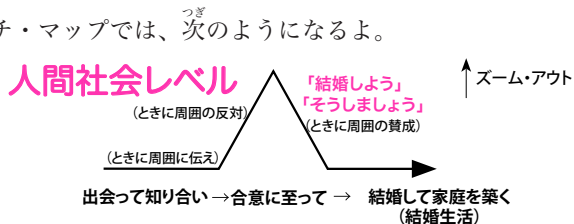
例えばズーム・アウトして見れば、そこにあるのは人間社会レベルの3ステップスだね」

「人間社会レベル——」

「そう。——その、いい例の1つが、ふつうの結婚さ。

例えば、“まず、ふたりが会って、お互いに知り合い、次に、お互いに賛成し合って合意に至り、その結果、実際に結婚して家庭を築く——” そのような3ステップスのことだよ。

プチ・マップでは、次のようになるよ。

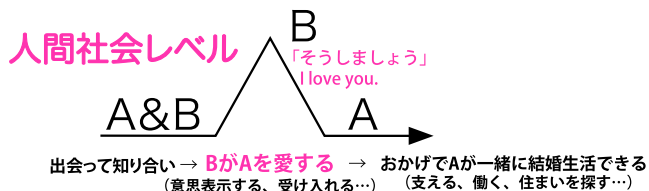
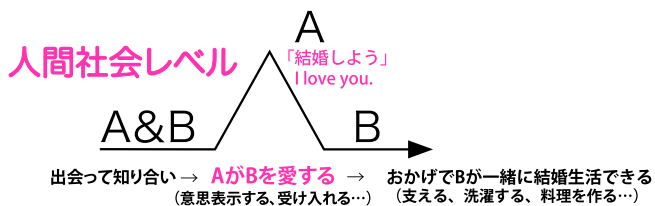


これだと、ときに周囲の賛成や反対が関わることも説明できる」

「ふうーん。

そうすると、人間社会レベルにおいても微妙な比率関係で繰り返されている様子を説明できるのね？」

「そうだね。ただ、そのような、やや複雑な説明ができる一方で、結婚の本質は、次の2つの単純な流れであり続けているんだよ」



「結婚は、お互い様なのね」

「そう。しかも、ここにあるのは、コンパルクルの“ラブラブになってね”とも関連している『Love-Loveの関係』でもある」

「『Love-Loveの関係』——」

「そう。この『Love-Loveの関係』は、ありがたいことでもあるのさ。なぜって、人間関係は多様で、ときに片思いや一方通行のような『Love-No Loveの関係』も、あるいは、ときに互いに嫌い合うような『Hate-Hateの関係』もありうるのだから。

そういう意味で、『Love-Loveの関係』を築くことは、前に君が指摘してくれた“社会的なハードルを乗り越えること”にも相当

しているんだよ。なぜなら、その本質部分は、例えば——

“貴校への私の入学を望みます。本校へのあなたの入学を望みます”

“貴社への私の就職を望みます。弊社へのあなたの就職を望みます”

“私のオリンピック出場を望みます。あなたのオリンピック出場を望みます”… のように理解できるから。

それに、『Love』だと少し大げさに思えるけれど、より一般的に、

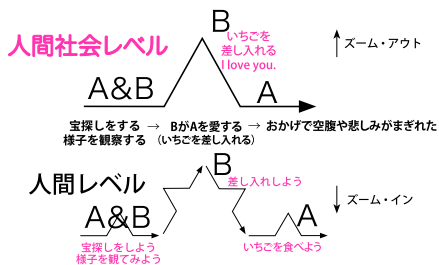
“あいさつ、優しさ、配慮、いたわり、手伝い、励まし、応援、支持、恵み、フルーツ…”を含む『For』の方向の言動を『Love』と見なせる。だから、一般的な『For-Forの関係』は、『Love-Loveの関係』であると見なせるのさ」

「ふうん。そうすると—— ほかにもいっぱいありそうじゃない？」

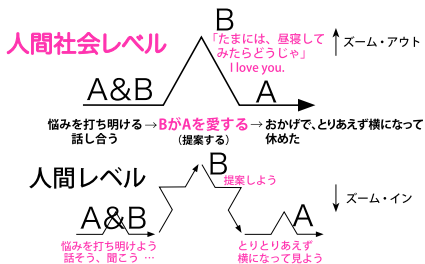
『For』の方向の言動としての『Love』に基づいた人間社会レベルの3ステップスって——」

「そうなんだよ。いっぱいある」

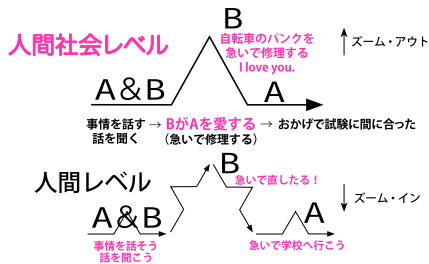
「例えば、おじいちゃんがいちごを**た**食べさせてくれたおかげで、**ぼく**の**く**空腹や**かな**悲しみがまぎれたとか——。



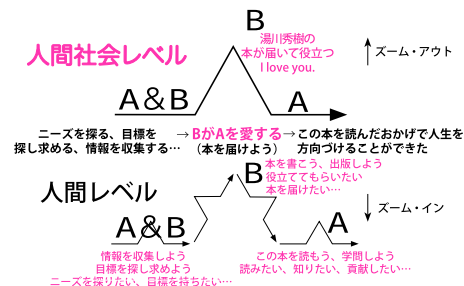
それに、おじいちゃんの“たまには**ひる**昼寝してみたらどうじゃ”という**てい**提案のおかげで、とりあえず**よこ**横になって**やす**休めたとか——。



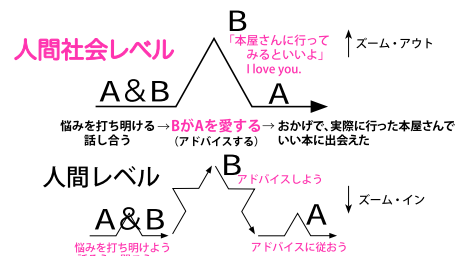
それに、**じてんしゃ**自転車屋のおんちゃんが**いそ**急いで**しゅうり**修理してくれたおかげで、**ぼく**たちが**ま**試験に**あ**間に**あ**合ったとか——。



それに、**ほん**本を通じて**ゆかわひでき**湯川秀樹に**であ**出会えたおかげで、**そだ**ライフ育ての**ほうこう**方向づけができたとか——。

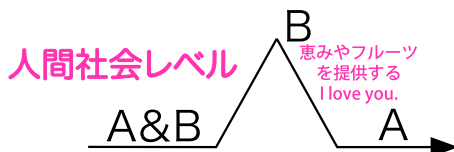


それに、“**ほん**本屋さんに行って**み**みた方が**いい**よ”という**きみ**君の**き**アドバイスの**おかげ**で、**じっさい**実際に行った**ほん**本屋さんで**いい**本に出会えたとか——。



このような“**さ**差し入れや**てい**提案、**しゅうり**修理、**しょせき**書籍、**アドバイス**…”などの**めぐ**恵みや**か**フルーツを介した**なが**流れも、『For』の**ほうこう**方向の**げんどう**言動としての『Love』に基づく**も**人間社会レベルの**3**ステップだと**い**言える。「『Love』—— **ほうこう**そうつぶやいた**げんどう**瑠音の**ほお**頬が、**あわ**淡い**さくらいろ**桜色に見えた。「——**ほうこう**そう。この『For』の**ほうこう**方向の**げんどう**言動としての『Love』は、**ほんとう**本当に、**さまざま**さまざまあるのさ。

この**い**意味で、**よ**世の中には、**あ**さまざまな**あい**愛があふれているのさ。**たと**例えば、**つぎ**次のような**れい**例も**あ**挙げられる」



- ニーズを探る、情報を収集する → **BがAを愛する** → おかげで生活できる、助かる
希望・事情を話す（聞く）… (恵みやフルーツを提供する) 楽しみにする、元気になる…
- ニーズを探る、情報を収集する → **商品を提供する** → おかげで生活できる
希望・事情を話す（聞く）… (農畜水産物、工業製品、お店…) おかげで生きられる…
- ニーズを探る、情報を収集する → **サービスを提供する** → おかげで通学・通勤できる
希望・事情を話す（聞く）… (運輸、通信、レジャー…) おかげで電話できる
おかげで楽しめる…
- ニーズを探る、情報を収集する → **ライフラインを提供する** → おかげで生活できる、
希望・事情を話す（聞く）… (水道、電気、ガス…) おかげで生きられる…
- ニーズを探る、情報を収集する → **学問の成果を提供する** → おかげで便利な生活ができる、
希望・事情を話す（聞く）… (科学技術、知恵…) おかげで助かる…
- ニーズを探る、情報を収集する → **情報を提供する** → おかげで知恵が得られる
希望・事情を話す（聞く）… (TV番組、新聞、ネット、書籍…) おかげでよい選択ができる…
- ニーズを探る、情報を収集する → **作品を提供する** → おかげで元気になる
希望・事情を話す（聞く）… (映画、ドラマ、舞台、ライブ 音楽、歌、詩、絵、写真…) おかげで楽しみが増える…
- ニーズを探る、情報を収集する → **教育を提供する** → おかげで能力が開花する
希望・事情を話す（聞く）… (幼稚園、小学、中学、高校、 大学、専門学校…) おかげで人生が育まれる
おかげでチャンスが広がる…
入園・入学を許可する)
- ニーズを探る、情報を収集する → **企業活動を提供する** → おかげで多くの人々が生活できる
希望・事情を話す（聞く）… (社会に貢献する、雇用を創出する、 人材(＝リダー、マネージャー…)を採用し報酬 を支払う、利益を出しながら資金を返す) 助かる、楽しめる、元気になる、おかげで 働ける、適切にリード・マネージできる、 おかげで投資活動を継続できる…

… … …

「工場こうじょうで自転車じてんしゃを作つくってくださる方々かたがたのおかげで私たちの通学つうがくライ
フなが成なり立たつとか、果物くだものや野菜やさいや穀物こくもつなどを育そだててくださる農家のうかの
方々かたがたのおかげで私たちの食生活しょくせいかつが成なり立たつとか、さまざまな製品せいひんや
サービスていきやうを提供ていきやうしてくださる方々かたがたのおかげで私たちの豊ゆたかな生活せいかつ
が成なり立たつとか… を含むふく誰だれかの恵めぐみやフルーツとを受け取とってエン
ジョイかていする過程かうけいが、どれも『For』の方向ほうこうの言動げんどうとしての『Love』
に基もとづく人間社会レベルにんげんしゃかいの3ステップれいの例れいだよってことは——

世よの中なかには、本ほん当とうに、さまざまあいな愛あいがあふれているのね」

「その通とおりささ。僕ぼくらも、恵めぐみやフルーツとという『For』の方向ほうこうの言
動げんどうとしての『Love』を、いつか世よの中なかで与あたえられるはずはずなだけ
どね。

——ってううか、僕ぼくらは、恵めぐみやフルーツとなどの『For』の方向ほうこう
の言動げんどうとしての『Love』を与あたえているときがあるんだよ。

受け取とると同時に——。すでに——」

「え？」

音楽 ♪心地よき日々 Comfortable Days 215 に続く

215

「例たとえば、お店みせに並ならんだ果物くだものや野菜やさいや穀物こくもつを、お金かねを支し払はらって買かう
ことは、めぐりめぐって、農業のうぎようを営いとなんでくださる方々かたがた、農産物のうさんぶつを運
送そうしてくださる方々かたがた、それをお店みせで売うってくださる方々かたがたに、恵めぐみや
フルーツとに相そう当とうする何なにかを与あたえることにつながっている——。

それは、例たとえば、お店みせに並ならんだ“自転車じてんしゃ、本ほん、CD、ノート、鉛
筆えんぴつ、消けしゴム…”を購こう入にゅうするときも同おなじだよ」と僕ぼく。

「あっ、そうか——。お金かねは、いずれ新あらたな“恵めぐみ&フルーツ”の
交こう換かんに至いたりうるから、お金かねを支し払はらって何なにかを買かうことが間かん接せつ的に
恵めぐみやフルーツとを与あたえていることになりうるのね？」と瑠音るね。

「その通とおりさ。

一方いっぽうで、すでに、恵めぐみやフルーツとに相そう当とうする何なにかそのものを直ちよく接せつ
与あたえることによって、僕ぼくらは人間社会レベルにんげんしゃかいの『For』に相そう当とうする

『Love』をお返ししているときもある。

たとえば、感謝、応援、支持、励まし、ファンレター、オマージュ、作品、知恵、アイデア、ヒント…を示すことも、恵みやフルーツを直接与えることに相当していると思うよ。

だから、恵みやフルーツに相当する何かを、将来それらと交換できるお金を介して間接的に与えることは、人間社会レベルの『For』に相当する『Love』をお返しすることの一部にすぎないはずさ。

いずれにしろ、受けとると同時に、こちらからお返しする『For』の方向の言動としての『Love』についても、多々、例を挙げられる

(右ページ図)

「つまり、私たちは、さまざまな形や言葉で、恵みやフルーツを与え合っているのね。すでに——」

「そうさ。こういった恵みやフルーツの与え合いの関係こそが、人間社会レベルの『For』に相当する『Love』の与え合いの関係——

恵み・恵みの関係、フルーツ・フルーツの関係、『For』-『For』の関係、つまり、『Love - Loveの関係』なのさ」

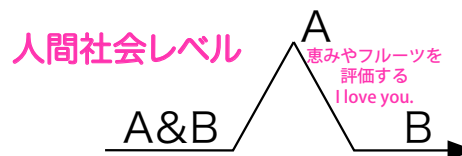
「アハッ♪ 相思相愛の関係は、ふつうの恋愛関係だけに限らないのね——」

「そうだね。しかも、片思いや一方通行も恋愛関係だけに限らない。

——だから、『Love - Loveの関係』を構築できるかどうかは、恋愛関係にとってのみならず、さまざまなフルーツや恵みを生み出したり、提供したり…を含むあらゆる活動にとっても、存続するかどうかを決める重要なカギの1つなんだと思うよ」

「そうね。おもしろーい♪」

音楽フェード・アウト ♪心地よき日々 Comfortable Days



- | | | |
|--|--|---|
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | AがBを愛する
(恵みやフルーツを評価する) | → おかげで恵み・フルーツを再生産・再提供できる
おかげで経営を継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | 商品を購入する
(代金を支払う、
感謝する、応援する、支持する…) | → おかげで商品を再生産できる
おかげで経営を継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | サービスを利用する
(利用料を払う、
感謝する、応援する、支持する…) | → おかげでサービスを
提供し続けられる
おかげでサービスを継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | ライフラインを利用する
(利用料を払う、感謝する…) | → おかげでライフラインを
提供し続けられる
おかげで経営を継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | 学問の成果を利用する
(特許料を払う、研究費を出す
感謝する、応援する、支持する…) | → おかげで新たな学問の成果を
再提供できる
おかげで学問を継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | 情報を利用する
(利用料を払う、視聴率に反映される
感謝する、応援する、支持する…) | → おかげで新たな情報を
提供できる
おかげで経営を継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | 作品を鑑賞する
(映画、ドラマ、演劇、ライブ、
音楽、歌、詩、絵、写真…を楽しむ
感謝する、応援する、支持する…) | → おかげで新たな作品を
提供・生産できる
おかげで経営を継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | 教育を志望する
(園児、児童、生徒、学生…
教育費の支払い、感謝する、支援する…) | → おかげで新たな教育を
提供できる
おかげで経営を継続できる… |
| 恵み・フルーツが世に出る →
(お試し、体験、公開
口コミ、宣伝…) | 企業活動を利用する
企業活動を支持する
企業活動を志望する
企業活動を指導する
企業活動に投資する
(人々が企業活動の利用料を払う
感謝する、応援する、励ます、投票する…
人材(能力、マンパワー)を雇う、就職を希望する
適切にリード・マネジメントする、資金を投入する…) | → おかげで新たな企業活動を
提供できる
おかげで経営を継続できる
おかげで企業が存続する… |

… … …

216

「それにしても、本当に、いろいろあるね。

人間社会レベルの3ステップって——」と瑠音。

「そうだね。しかも、この人間社会レベルの3ステップは、ふた
りだけのスケールから、何十億人が関わるスケールまで—— いわ
ば、ローカルな人間社会からグローバルな人間社会まで、どんなス
ケールでも成立しうるよ」と僕。

「それはつまり—— プライベートな人間社会から全地球的な人間
社会まで、家庭生活、育児、教育、学問、生産、エンターテイメント、
サービス、企業、投資、福祉、医療、立法、司法、行政…を含む社
会的な営みは、人間社会レベルの3ステップの上で繰り返され
ているという意味で、どれも同じってことなのね？」

「そうさ。——さらに、こういった社会的な営みのいずれにおい
ても、君が指摘してくれたように、さまざまな要素が新たに関わって、
微妙な比率関係の上で繰り返られることが起こりうる。

——例えば、誰かさんの大学合格とか？」

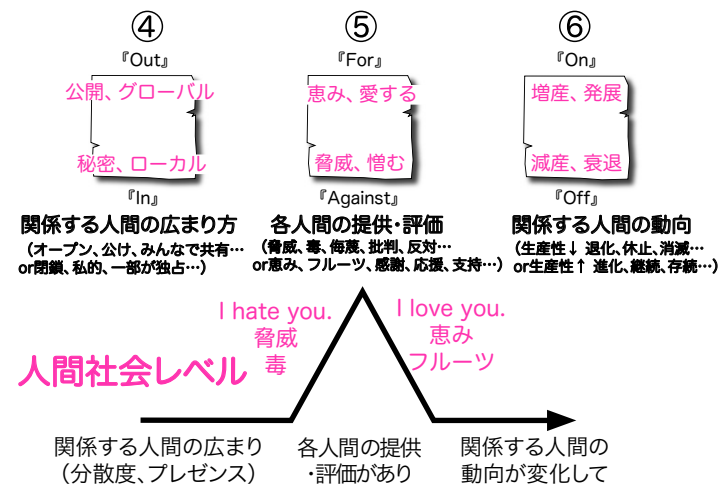
「——フッ♪ あれは、リアルな社会現象の一例だったのね」

「その通り！」

「そうすると—— 一見どんなに複雑に見える社会現象も、ある程
度、第7フレームで説明ついちゃうのかもね♪」

217

「第7フレームにおける、人間社会レベルの3ステップの意味は、
第4フレームから第6フレームまでを考え合わせると、もっと、わ
かりやすくなるはずだよ。例えば、次のように——」と僕。



「——アハッ♪ 確かに、そうよね」と瑠音。

「さらには、ある個人に着目するならば、次のようなことも言える。

ある個人は——

あるときは、

“話し合ったり、知り合ったり、相談したりして情報の収集や共有
をする。

口コミやネット、広告などによって、何かを宣伝して世に広める。

就活したり、婚活したりして自身が世の中デビューする。…”

という形で、第1ステップを担っていて——

218

あるときは、
 “商品やサービス、作品を提供する。
 商品を買ったり、サービスを利用したり、作品を鑑賞したりする。
 アドバイスしたり、応援したり、助けたりして身近な誰かを愛する。…”

という形で、第2ステップを支えていて——

あるときは、
 “商品やサービス、作品を提供されるおかげで生きる。
 商品を買っていただいたり、サービスを利用していただいたり、
 鑑賞していただいたりや励みにしながら再び商品やサービスや作品
 を提供する。

アドバイスされたり、応援されたり、助けられたりを含めて、身
 近な人に愛されながら生きる。…”

という形で、第3ステップを受け持っている——

そのようなことが言えるのさ

「へえー。つまり、ある個人は、人間社会レベルの3ステップの
 中で、その位置を変化させうるのね？」

「そうさ。これら1つ1つも、れっきとした“ライフのあり方”の
 例なんだよ」

「ええ、そうね♪」

「人間レベルからズーム・アウトすると見える3ステップが人間
 社会レベルだったけれど—— さっき言ったとおり、人間レベルから
 逆にズーム・インすると見える3ステップもあるんだよ」と僕。

音楽イン ♪春 Spring

「それは、なあに？」と瑠音。

「うん。それが、細胞社会レベルの3ステップさ」

「サイボウ社会？」

「そう。細胞とは、“頭の先から足の先までの全身を構成する基本単位”
 のことで—— 感覚細胞、神経細胞、筋肉細胞、免疫細胞…を含め
 て、およそ何百種類に及ぶ細胞たちが、人間を構成しているんだよ」

「何百種類！？」

「そう。それで、ある個人が持っている細胞の数は、何十兆個にも
 及ぶのさ」

「何十兆個！？」

「そう。それで、それらの細胞の1つ1つは、ある決まった役割——
 何百種類の中の1つの役割——を果たすように設定されていて、そ
 の設定に基づいて生存しているんだ。

——で、まずは、それが細胞レベルだね」

「細胞レベル——」

「そう。それで大切なポイントは、1つ1つの細胞が個々に生存し
 ているだけではないってことさ」

「——あ！もしかして、“恵みやフルーツの与え合い”？」

「そう。その通りだよ。」

それは人間社会レベルの場合と同じなんだ。

循環の大部分を担う心臓や血管などを構成する細胞たち

呼吸の大部分を担う肺などを構成する細胞たち

運動を担う骨や筋肉などを構成する細胞たち

栄養の供給を担う胃腸などを構成する細胞たち

外界からのバリアを担う皮膚や粘膜などを構成する細胞たち

血液の浄化を担う腎臓などを構成する細胞たち

ホルモンの分泌を担う下垂体や副腎、性腺などを構成する細胞たち

情報の伝達を担う脳神経などを構成する細胞たち

免疫を担う血液などを構成する細胞たち

...

さまざまな種類の細胞どうしは、互いに恵みやフルーツを与え合

いながら、支え合っているのさ」

「——へえー」

音楽 ♪春 Spring 219 に続く

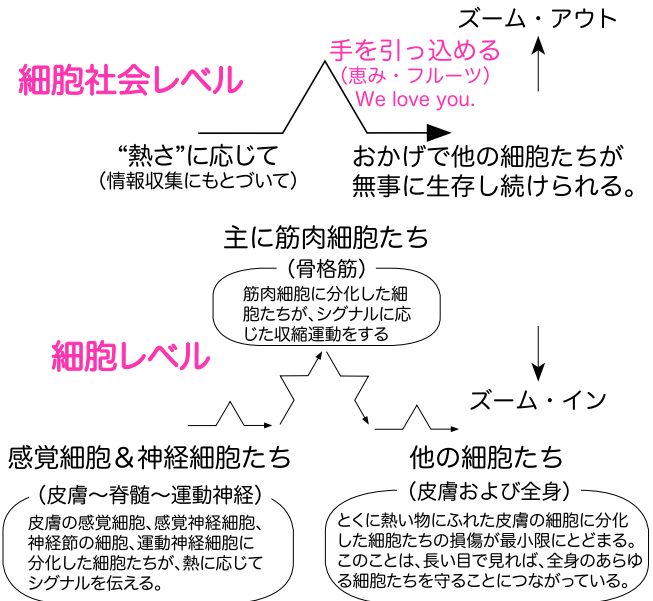
219

「細胞社会レベルの3ステップの一番わかりやすい、最も単純な

例の1つは、“熱い物に手などがふれた際に思わず引っ込める反射”

を介する過程だと思ふよ。

それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる——



つまり、ここにあるのは、

『“熱さ”についての情報収集

→ “手を引っ込めるという運動” という恵み・フルーツの提供

→ おかげで皮膚の細胞を含むほかの細胞たちが生存し続けられる』

という細胞社会レベルの3ステップなんだよ」

「——そうすると、バースデーパンケーキ作りの際に、あなたが火傷

してしまったことには、それほど深い意味があったのね」と溜音。

「そうそう、そうなのさ。それを見越して、あえて火傷してみせた

のさ。って、そんなわけないだろ。アッハッハッ！」

「アハハッ♪」

音楽 ♪春 Spring 220 に続く

220

「細胞社会レベルの3ステップの例は、次のように整理できる。
 人間社会レベルほど多様じゃないけれど、いろいろある」と僕。



「それにしても、細胞社会レベルの3ステップって、人間社会レ

ベルの3ステップと、よく似ているね」と瑠音。

「そうだね。なんせ、3ステップが自己相似性を持つフラクタルだからね」

「そうすると—— いずれの細胞社会レベルの3ステップにおいても、お互いが、お互いのために、恵みやフルーツを提供し合っているのね? 人間社会レベルの3ステップの場合と同様に——」

「そうさ。これらの細胞社会レベルのステップにおいても、『For』に相当する『Love』の与え合いの関係——恵み-恵みの関係、フルーツ-フルーツの関係、『For』-『For』の関係、つまり、『Love-Love』の関係が成立しているのさ」

「アハッ♪ おもしろーい♪」

音楽 ♪春 Spring 221 に続く

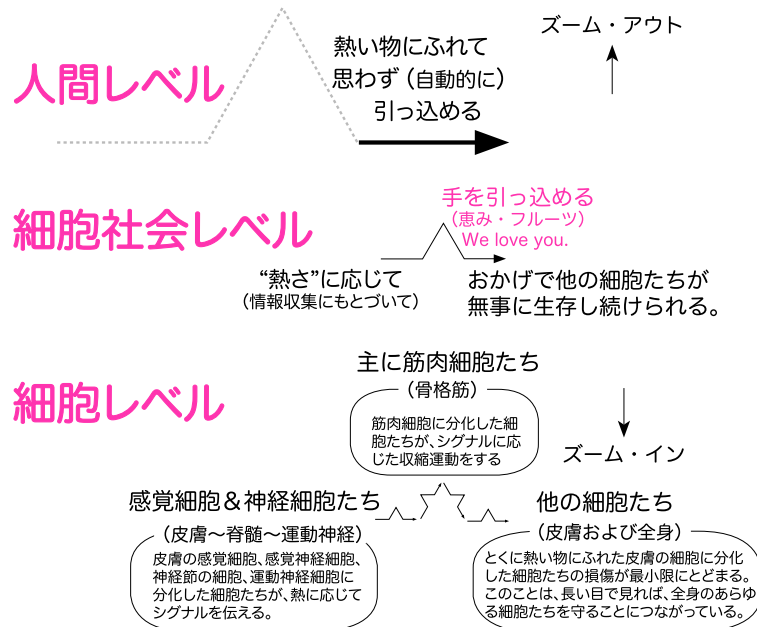
221

「細胞レベルと細胞社会レベルの関係に、人間レベルを考え合わせれば、さらにおもしろいことに気づくことができるよ」と僕。

「——え、どんなこと?」と瑠音。

「うん。“熱い物に手などがふれたときに思わず引つ込める反射”を介する過程の例がわかりやすいから、それで説明するよ。

それだと、次のようになるんだ。



この場合、細胞社会レベルの3ステップが、個々の細胞レベルからズーム・アウトして見えると同時に、人間レベルの第3ステップからズーム・インしても見えることになる

「ふーん。そうすると、この“反射”を含む過程においては——人間レベルの第1ステップと第2ステップ、例えば“認識して、決めて”が省略されていることになるのね？」

「そうなのさ！ このときは、“～しよう”の意志も“～したい”の欲求も関係せずに、いわば自動的に運動している」

「すごい！ これって、もしかして、ほかの“自動的に生じる現象”も、うまく説明できるってことじゃない？」

例えば——

心臓がドキドキ高鳴るとか
呼吸がハアハアはずむとか
心身がリラックスするとか
“好き”という感覚や感情が湧くとか
“知りたい”という欲求が湧くとか
“会いたい”という欲求が湧くとか…」

「そうだね。ほかにも——

あるものを見て、何かのイメージが連想されるとか
“のどが渴いている”という感覚が生ずるとか
“お腹が空いている”という感覚が生ずるとか
イライラして“やけ食いたい”という欲求が生ずるとか
緊張して“トイレに行きたい”という欲求が生ずるとか
暑くて汗をかくとか…

どれも、人間レベルの第1、第2ステップ、“認識して、決めて”のプロセスが省かれたまま、自動的な細胞社会レベルの働きにもとづいて生じていると説明できる。

音楽 ♪春 Spring 222 に続く

222

「もちろん、知りたい、会いたい、食べたい、飲みたい、トイレに行きたい…という欲求が自動的に生じたからといって、必ずしも、すぐに実現できるとは限らなくて——」と僕。

「そうよね。状況に応じて—— 知るのを今はよそう、会うのを今

遠慮しよう、食べるのを今は我慢しよう、水分摂取を今は控えよう、
 トイレに行くのを今すぐはやめそう…と決めて、実現させない場面
 も多々あるわよね」と溜音。

「そうさ。それは行動をコントロールする意志の力のおかげなのさ」

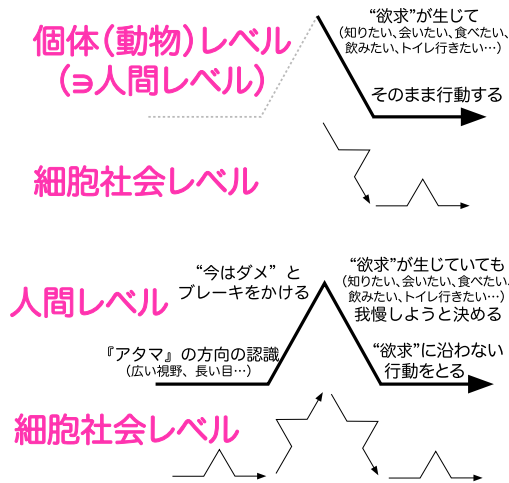
「そうね。個人差があるだろうけれど—— 動物より人間の方が、

そのコントロール力が大きいのは確かよね？」

「そうだね。その差は、広い視野や長い目を含む『アタマ』の方向

の認識力の違いを反映しているはずだよ。

このあたりの違いを図で示せば、例えば、次のようになるよ」



「欲求のままに行動している例では、『アタマ』の方向の認識のステップ
 にな、人間レベルを含む個体レベルの第1ステップが省略され
 ているのね？」

「そうさ。もちろん、人間も動物も、第1ステップが完全に省略さ

れるのは稀で、実際は『カラダ』の方向の認識のステップが関わ

ていることが多いと思うよ。

——本能ってやつだね」



「ふーん」

「まあ、それでも、人間が、さまざまな欲求と健全に付き合うため
 に『アタマ』の方向の認識力が重要であるのは変わらないよ。

それに、欲求は、すべて抑制されるべきであるとは限らなくて、
 ときに、『アタマ』の方向の十分な認識を経ても衰えないのさ。こ
 の『アタマ』の方向の十分な認識によって衰えない“健全な欲求”
 こそが、健全な“やる気やワクワク”の根幹なんだと思うよ」

「なんだか—— ワクワクするうー♪」 音楽 ♪春 Spring 223 に続く

223

「そうすると—— “意識してやることと意識せずにやることの間
 係”についても、うまく説明できるわよね？」 溜音らしい提案が
 なされた。

「そうなんだよ。できる。——そのための、いい例の1つが、“立
 位の姿勢を保つこと”だと思うよ」と僕。

「え？ ——どういうこと？」

「うん。そもそも人間は、立った姿勢で料理をしたり、立った姿勢

で本を読んだり、立った姿勢で話したり…わざわざ意識しなくても立ってられる。でも、それって、よく考えてみると不思議でない？

だって、人間の体って、こんなに細長いんだぜ？」

「—あ、言われてみれば、そうね。—。うーん、難しそう」

「ううん。実際は、とてもシンプルさ。

“体が少し前に傾いたら、後ろに筋肉を収縮させる。体が後ろに傾いたら、前に戻すように筋肉を収縮させる。体が左に傾いたら、右に戻すように筋肉を収縮させる。…”ただ、その繰り返しが続いているだけのことなのさ。

人体が立位の姿勢を保つことができるのは、ふつう、そうした微調整が自動的に何度も繰り返され続けているおかげなんだよ

「—アハッ♪ 言われてみれば、案外、単純かも—」

「だろ？ だから、“意識して立ち続けていること”も実は可能で、それだと、次のようになるんだ。

“前に傾いた！”→“立て直そう！”→実際に立て直して→…

それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる」(次ページ上図)

「つまり、人間レベルの3ステップスがフル回転し続けているのね。

でも、いちいち、そんなことをしていたら、疲れちゃうよね」

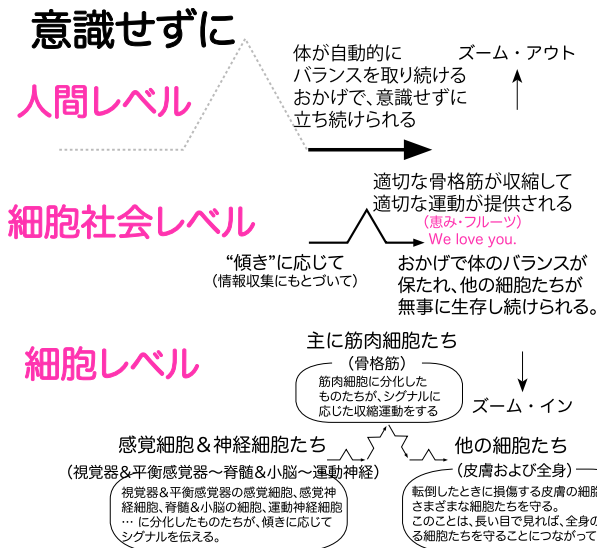
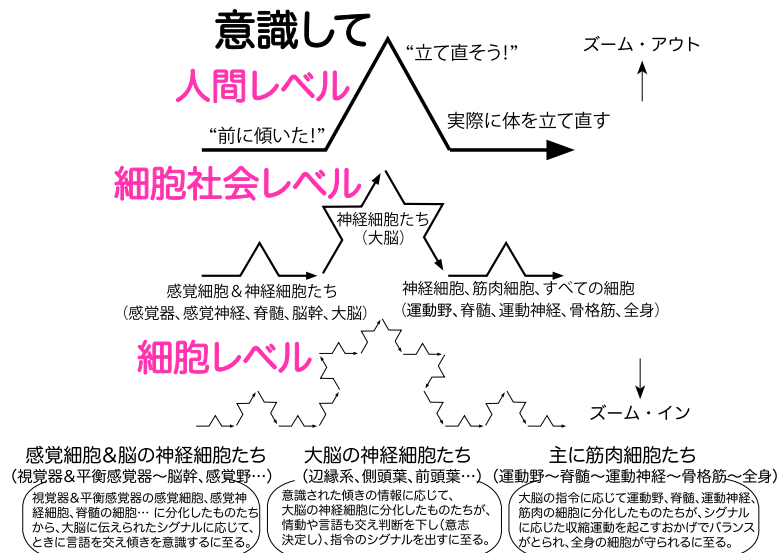
「そう。疲れる。—だから、ふつうは、そうじゃないんだよ」

「—ふつうは？」

「ふつうは、体が自動的にバランスを取り続けてくれる。だから、わざわざ意識しなくても済むし、大して疲れずにも済むのさ。

それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる。(次ページ下図)

つまり、細胞社会レベルの3ステップだけが自動的に回転し続けているのさ」



「——アハッ♪ 自動的にバランスを取り続ける方は、“省エネ”
 って感じで、ラクチンね♪ わざわざ意識しなくてすむし——」
 「そうだね。それで、この自動的な“省エネ”の方が、まさに、体
 で覚えていることなんだ。この例には、自転車乗りも含まれる。僕
 らのようなベテランになると、体が自動的にバランスを取ってくれ
 るおかげで、わざわざ意識しなくても自転車は倒れないようになる」
 「——だから、自転車に乗りながら、風の心地よさや英単語覚えの
 方に意識を向けていられるのね♪」
 「その通りさ」

音楽 ♪春 Spring 224 に続く

224

「もちろん、体で覚えていることには、立位の姿勢を保つことや自
 転車に乗ること以外にも、いろいろある。歩くことや泳ぐこと、声
 を出すことや字を書くこと、ワープロやパソコンを操作すること、
 ハシなどの道具を使って食べること…を含めて、いろいろ——」

これらは、自動的な“省エネ”回路が体の中で働いている点で、
 どれも同じなんだ。

おかげで、わざわざ意識しなくて済むようになってい」と僕。
 「——そうすると、そうなるように何かを新たに体で覚えるために
 は、意識しながらの繰り返しの練習が重要になるのね？」と溜音。
 「そう。もちろん、それは、何かを新たに頭で覚えるのも一緒だよ」
 「——。 ——あ、そうかあ！ 電話番号とか、歴史の年号とか、

九九とか、数学の公式とか、英単語とか…何かを新たに暗記する際
 にも、意識しながらの繰り返しが大切になるね」

「ああ。つまり、体も頭も、意識して何度も繰り返せば、いつしか、
 その働きが自動化しうる。

それが体や頭で覚えるということ、いったん覚えてしまえば、
 余裕ができて、次の新しい学習に意識を向けられるようになる」

「——あつ！ それは、赤ちゃんの発達も、きっと同じよね？ お座
 りして、ハイハイして、立ち上がって、歩いて、言葉をしゃべって…。
 はっきりとは記憶に残ってないけど—— 最初のころは、そのこと
 に、いっぱい意識を向けていたんだよね？ きっと——」

「ああ、そうだね。初めてのころは、たいい何だつて、意識がた
 くさん注がれる。でも、いったん体や頭で覚えてしまえば、わざわざ
 意識しなくて済むようになる——」

それは、悪く言えば、“飽きるとか、新鮮さがなくなるとか”つて
 ことだけれど—— よく言えば、“それだけ余裕が生まれて、次の
 新しい成長に向けてステップアップできる”つてことなのさ」

「ええ、そうね。

もちろん—— 知らず知らずに繰り返されて、クセや習慣や記憶
 として、知らず知らずに体や頭で覚えられていることもあるだろう
 けれど—— それらさえも意識して繰り返せば、きっとリニューアル
 できるのよ。

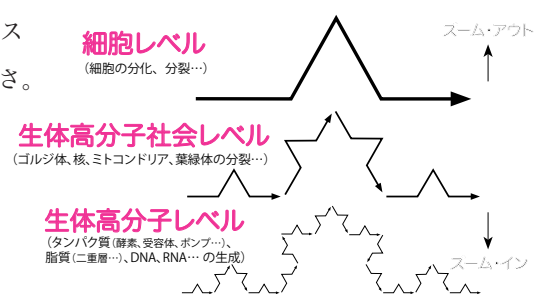
——あ！ これがあてはまるのは、きっと運動のし方や知識の思
 い出し方だけじゃないわ。情緒や情操を含む感じ方も—— 連想や
 想像を含む考え方も—— 言葉遣いや表情を含む表現し方も——

—そうよ、^{だんせい}男性的なところや^{じょせい}女性的なところも！」
 「うん。—つまりは、“^{せいかく}性格や^{こころ}心とかも、^{いしき}意識して^く繰り返すこと
 で、^{じぶん}自分が^{のぞ}望むように^{あたら}新しく^{はぐ}育める^{かのうせい}可能性がある”ってことだね？」
 「ええ。きつと、そうよ♪」 音楽フェード・アウト ♪春 Spring

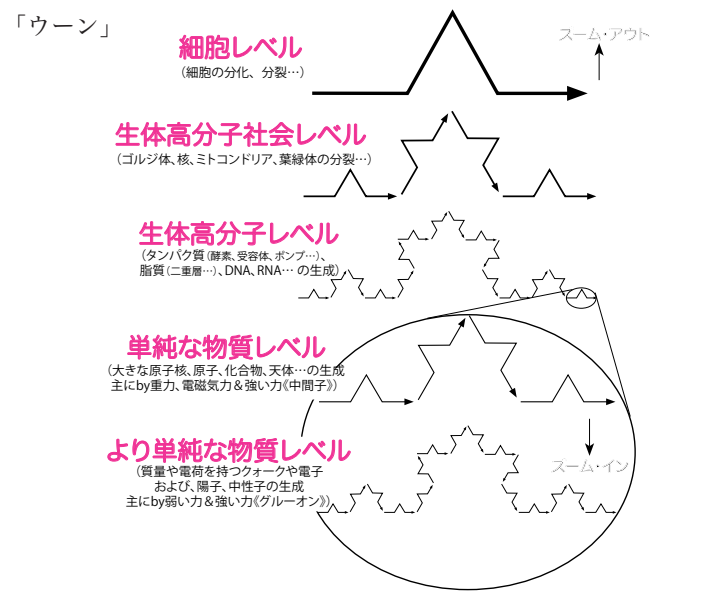
225

「ああ、^{わたし}私は、もう^{まんぷく}満腹よ。もう^{じゅうぶん}十分満足。—これなら、どんな
 に複雑な“^くライフの^ああり方”も、たった7つのフレームの^く組み合わせ
 だけで、ある^{ていど}程度、^{せつめい}説明できそうよね？ アハッ♪」と^る瑠音。
 「—うん。^{ぶんけい}文系の^{たち}立場としては、もう^{じゅうぶん}十分かもしれないけれど、
^{りけい}理系の^{たち}立場としては、まだ^{もの}物足りないんだ」と^{ぼく}僕。

「え？ それって、もしかして—」
 「そう。1個1個の^{さいぼう}細胞レベルの3ステップは、それより^{こま}細かい
 レベルの3ステップ
 で^さ支えられているのさ。
 つまり、まだまだ
 ズーム・インできる
 んだ」
 「えー！？」
 「それは、^{さいぼう}細胞レベルの3ステップをズーム・インすれば、^{せい}生体
^{こうぶん}高分子^し社会^{しかい}レベルの3ステップが見えて、さらにズーム・イン
 すれば、^{せい}生体^{たい}高分子^{こうぶん}レベルの3ステップが見えるってことさ」

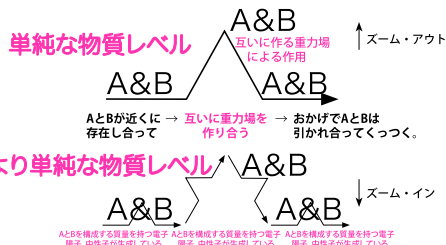


「—。 ^{せい}生体^{たい}高分子^{こうぶん}レベル—」
 「そう。この^{せい}生体^{たい}高分子^{こうぶん}レベルの3ステップより、さらに^{こま}細かい
 レベルの3ステップもあって—」 そう僕が言うと—
 「えー！？ まだあ！？」 ^る瑠音は、さらなる^{おどろ}驚きの^{こゑ}声を上げた。
 「まだ—」
 それが、ついに^{たんじゆん}単純^{ぶつしつ}物質^{ぶつしつ}レベルの3ステップさ。
 これは、^{じゆうりよく}重力や^{でんじきりよく}電磁気力などの“^{ぶつりてき}物理的な力”によって、^{やうし}陽子や
^{ちゆうせいし}中性子、^{でんし}電子などの^{ざいりやう}材料から、^{たんじゆん}単純^{ぶつしつ}物質^{せいせい}が生成する^{かてい}過程としての、
 3ステップさなのさ。これは、^{ぶつりほうそく}物理法則に近いよ。
 この^{たんじゆん}単純^{ぶつしつ}物質^{せいせい}レベルの3ステップは、^{せい}生体^{たい}高分子^{こうぶん}レベルの
 3ステップからズームインして見ると同時に、より^{たんじゆん}単純^{ぶつしつ}物質^{せいせい}
 レベルの3ステップからズームアウトしても見えるんだ」



226

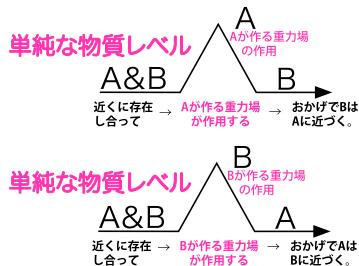
「**単純な物質レベル**の最も単純な例の1つは、質量を持つ“2つの物質AとB”が重力によって結びつく過程」と僕。



「**人間社会レベル**の“結婚”の例と似ているね？」と瑠音。

「そう。似ている。何しろ、フラクタル的に相似だからね。」

だから、結婚のときと同じように、次のような2つの過程が組み合わせられていると見なすことができる。

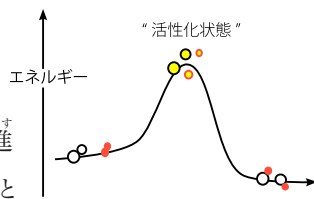


この重力がもたらす過程は、ごく単純な例だけれど、これを組み合わせることで—— 太陽や地球などの天体が誕生する過程の根本部分を説明できる」

「へえー♪ なんだか、すごいね」

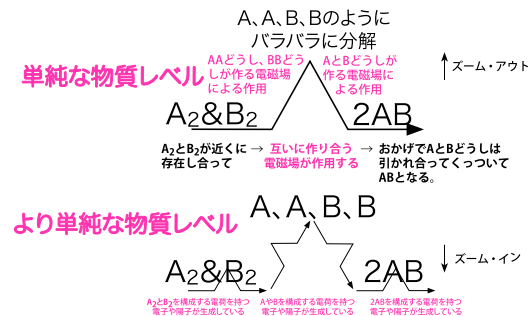
227

「この**単純な物質レベル**の3ステップの例には、前に僕が話した、化学反応が進むかどうかを決める“**活性化エネルギー**”と

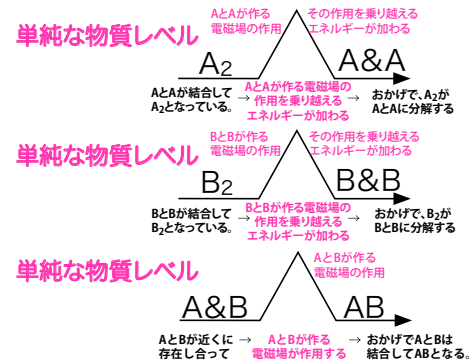


このハードルの乗り越えの過程も含まれる。

これを第7フレームを使って示せば、次のようになるよ。



これは、やや複雑だけれど、次のような3つの過程が組み合わさっていると見なせる」と僕。

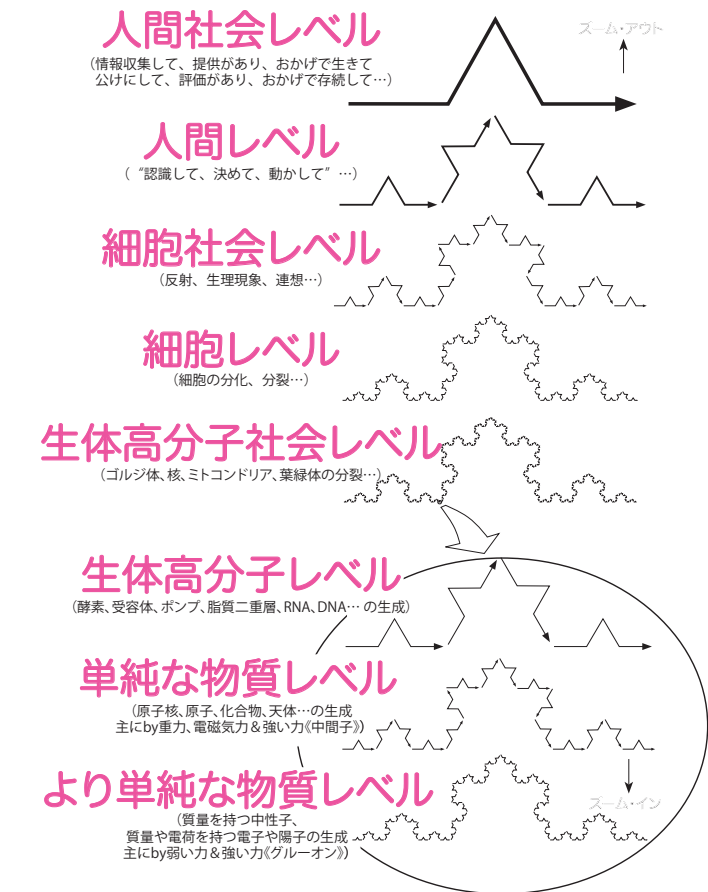


「へえー。——と言っても、何となくしか、わからないんだけどね。フッフ♪」と瑠音

「何となくでも十分さ。ここで、これまで挙げた各レベルの3ステップたちを、全部まとめることができる。

つまり、前に君が連想した社会的なハードルと僕が連想した“**活性化エネルギー**”というハードルが、1つにつながっていったことになるんだよ」

228



「わたしの連想とあなたの連想がつながっていた——」

「つながっているのは、化学と人間社会だけじゃないよ。さらには、
君が得意な文系の日本文学、教育学、心理学とも、僕が得意な理系の
ライフサイエンス、生理学、分子生物学とも、ニュートン君——心
笑君が得意な物理学とも、つながっていたことを意味しているのさ」

「へえー！」

「ポイントは、各レベルの3ステップが、ズーム・インするかズーム・アウトするかに応じて見える側面であるってことなんだ」と僕。

「——え？ じゃさあ、物質現象だけでなく、生命現象も、人間のふるまいも、人間社会の営みも…どれもすべて、結局、物理的な力だけで、あるいは、物理法則だけで、すべて説明できてしまうということ？」 瑠音が素朴な疑問を投げ掛けた。

「でも、実際は説明できないよね？」

「ええ、そうね。なんだか不思議——」

「僕も最初は不思議に思ったさ。でも、OKなんだよ」

「どういうこと？」

「うん。もちろん、生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ…は、どれも、重力や電磁気力などの物理的な力や、それらの力の働き方を示す物理法則で説明できるという一側面を持っているよ。

例えば“ニュートンの万有引力の法則で示されるような重力が地上のあらゆる生物においても働いているおかげで、地上の生物の暮らしが成立している”とか“クーロンの法則で示されるような電気力が地上のあらゆるライフにおいても働いているおかげで、化学反応が進んで生命の営みが成立できている”とかって具合にね」

「——ええ、そうね」

「それで、各レベルのライフは、物理的な力の働き方を示す物理法則に近いところの、単純な物質レベルの3ステップが担う自然法

則のおかげで誕生している一方で、同時に、別のレベルの3ステップスが担う、別のレベルの自然法則のおかげでも誕生しているんだ」
「別のレベルの自然法則——」

「そう。それが、ほかならぬ、単純な物質レベルからズーム・アウトすることで見える高次レベルの3ステップスが担っている決まった流れのときさ。

つまり、ズーム・アウトすることで見える高次レベルの3ステップスが担っている決まった流れとしての新たな自然法則が、各レベルのライフを誕生させているから、各レベルのライフは、単純な物質レベルの3ステップスだけでも、それを支えている物理的な力や力の働き方を示す物理法則だけでも説明できなくなるのさ」

「——ウン」

「自然法則であるところの、3ステップスが担っている決まった流れとは、“この条件では、ほかでもなくこうなる”のような流れのことでよ。

ズーム・アウトすることで見える高次レベルとは、第4フレーム『In Out』における『Out』の方向のレベルのことでよ」

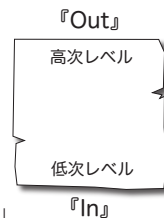
「——ウン、何となく、わかるような気がする——」

「歴史的な全体像を見ると、よりわかりやすくなるかも——」

「歴史？」

「歴史と言っても、百何十億年の歴史」

「百何十億年!？」



229

音楽イン ♪ Birthtime

「今から、百何十億年以上も前に、この宇宙が生まれた。

その際に、時空の構造が成熟する過程を経ながら、この宇宙において、物理的な“この条件ならば、こうなる”のような決まった流れ、物理法則に近いところの自然法則が成立した。

この物質の生成過程に相当する3ステップスが担う自然法則は、さまざまな物質の構造——形を誕生させた。

より単純な物質レベルの3ステップスが担う自然法則が誕生させた存在が——

物質優位の、電子やクォークであり

陽子や中性子であった。

それらが支え合って生まれた、より高次の単純な物質レベルの

3ステップスが担う自然法則が誕生させた存在が——

原子核であり

水素、ヘリウム…などの軽い元素であり

恒星であり

炭素、窒素、酸素、鉄…などの重い元素であり

星雲であり

小さな天体であり

太陽や地球であった。

誕生して間もない地球上には物質だけが存在していた。

この物理法則に近い3ステップスが担う自然法則は、地球上に、

ある程度、多様な自然、多様な物質の構造——形を誕生させた。

※例えば、アンモニア、メタン、二酸化炭素、水分子、アミノ酸、リン酸、脂質などの単純な分子、および、雲のモクモク、雪の結晶、海岸線のギザギザ、合流を繰り返す川のクネクネ、山のデコボコ、火山噴火、マンツルの対流、移動する大陸、岩石、海、雷、雨、小石、風…を誕生させた。



多様な物質たちが支え合って生まれた、生体高分子レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な生体高分子構造——形を誕生させた。

※例えば、タンパク質（酵素、ポンプ、受容体…）、脂質二重層、RNA、DNA…を誕生させた。



多様な生体高分子レベルのライフたちが支え合って生まれた、生体高分子社会レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な生体高分子社会形態——形を誕生させた。

※例えば、触媒タンパク質が連携する代謝系とリン脂質二重層によって形成された細胞膜などが協力しあっている原始生命、原核生物（細菌や古細菌）…を誕生させた。

※とりわけ、“RNAやDNA”を使うさまざまな生体高分子レベルのライフが支え合ったことは、生体高分子社会レベルの3ステップスが担う自然法則を世代を越えてより確実に伝えることを可能にした。

この自然法則は、より迅速に書き換わりえた。

→新たな生体高分子社会形態——形が、より迅速に誕生するようになった。

その結果、生体高分子社会レベルのライフのみならず、生体高分子レベルのライフの、より迅速な進化が可能になった。



多様な生体高分子社会レベルのライフたちが支え合って生まれた、複雑な（真核）細胞レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な細胞構造——形を誕生させた。

※例えば、（ミトコンドリア、葉緑体の起源となった）原核生物たちの共生によって生まれた、核を持つ、複雑で多様な真核細胞を誕生させた。

※真核細胞は、さまざまな条件に応じた“分化&分裂”を達成できるようになった。有性生殖が始まると、細胞レベルの3ステップスが担う自然法則の書き換え効率はさらに上がった。



多様な細胞レベルのライフたちが支え合って生まれた、細胞社会レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な細胞社会形態——形を誕生させた。

※例えば、細胞間のコミュニケーションおよび細胞の“分化&分裂”の連携プレーの成熟により、単純な多細胞生物（エディアカラ生物群）を誕生させた。



多様な細胞社会レベルのライフたちが支え合って生まれた、（複雑な）個体レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な複雑な個体形態——形を誕生させた。

※例えば、目を持つ、カンブリア紀の生物（節足動物…）、のちの脊椎動物（魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類《霊長目…》）を誕生させた。



多様な個体レベルのライフたちが支え合って生まれた、個体社会レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な個体社会形態——形を誕生させた。

※例えば、個体間のコミュニケーションの成熟により、各種の個体社会を誕生させた。

※とりわけ、洗練された言語〈音声言語 & 文字〉を使うさまざまな人間レベルのライフが支え合ったことは、人間社会レベルの3ステップスが担う自然法則の所産である文明や文化…を、年齢や世代、地域を越えて、より確実に伝えることを可能にした。

この自然法則は、より迅速に書き換わりえた。
→新たな機能を持つライフスタイル、新たな機能を持つ人間社会形態——形が、より迅速に誕生するようになった。

その結果、人間社会レベルのライフのみならず、人間レベルのライフの、より迅速な発展や成熟が可能になった。

——これが、百何十億年の歴史さ

音楽フェード・アウト ♪ Birthtime

230

ザブーン、ザザザシュー…

なぜか、心の中に、夏の海の波の音が響き渡っていた。

「3ステップって、どれも自然法則を担っていたのね」と溜音。

「そうさ。低次の3ステップスが物理法則に近い自然法則を担っていたし、高次の3ステップスがライフ法則としての自然法則を担

ていた——」と僕。

「さまざまな物質だけでなく、さまざまなライフも、自然法則のおかげで誕生できた存在だったのね」

「そうだね。“この条件ならば、こうなる”のような決まった流れは、さまざまなライフにもあって、このライフ法則としての自然法則のおかげで、さまざまなライフが誕生できたのさ。

しかも、低次レベルの3ステップスに支えられる“物理法則に近い自然法則”の生む自然が、比較的単純であり続けるのに対して、高次レベルの3ステップスに支えられる“ライフ法則としての自然法則”の生む自然——ライフ形態、個体形態、社会形態…は、どこまでも複雑多様になりうる」

「だから、ライフは、物理法則だけで説明できなくなるのね」

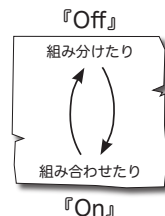
「そうさ。さらに、DNAや言葉などを利用するライフの場合は、自然法則を迅速に書き換えることで、新しい形、すなわち、新しいライフを迅速に誕生させることができるから、ますます、決まりきっている物理法則だけでは説明できなくなる」

「——アハッ♪」

このライフにおける自然法則の書き換えの話は、高3の夏のときの海辺での『“組み合わせたり組み分けたり”が

繰り返されるおかげで、あらゆる新しい存在が創造される』という話と関係あるかしら？」

「おありだよ。DNAや言葉などを利用した自然法則の書き換えも、まさに“組み合わせたり組み分けたり”の繰り返しの例に相当しているから。



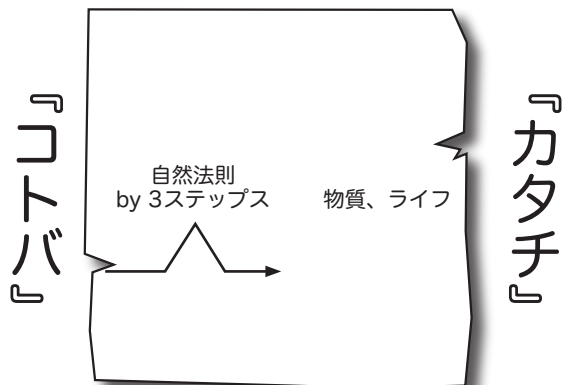
ただ、『“組み合わせたり組み分けたり”が繰り返されるおかげで、あらゆる新しい存在が創造される』という話は、ライフにおける自然法則の書き換えだけに限らず、もっと普遍的なことだよ。

例えば、決まりきっている物理法則に近い自然法則のもとで、唯一無二の地球という天体が誕生したのも、“組み合わせたり組み分けたり”の繰り返しのおかげだから。それは、太陽や月も同じ——

「あ、そうか——」

「いずれにしても、次のようなことも言える。

自然法則 by 3ステップスが『コトバ』の方向にあるなら、その所産、物質、ライフそのものが『カタチ』の方向にあるということも——。



つまり、『カタチ コトバ』のフレームは、より単純な物質レベル～単純な物質レベルの物質から、生体高分子レベル～人間社会レベルのライフまで、広く適用できるのさ」

「へえー！」

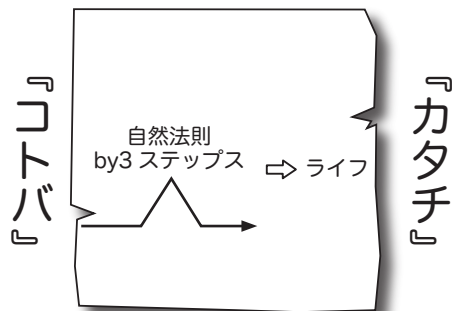
231

ザブーン、ザザザシュー……

相変わらず、夏の海の心地よい波の音が心の中に響き渡っていた。

「つまり、生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ、いずれのライフも、3ステップスという生成過程を経て誕生していることは、『コトバ』の方向の“自然法則 by 3ステップス”をベースにして、ライフという『カタチ』の方向の实在が誕生していると見なせるのさ。

まあ、これがライフの本質の1つだね」と僕。



「——1つということは、ほかにもあるの？」と増音。

「ある。もう1つの本質は、『カラダ アタマ』のフレームを“ミクロの生体高分子レベルのライフからマクロの人間社会レベルのライフまで”適用すると見えるんだよ」

「へえー。どんな本質なの？」

「それぞれのレベルのライフは、自身を支える重要な部分、すなわ

ち、『アタマ』の方向の部分を持っているという本質さ」

「——ウ〜ん」

「具体的にみると次のようになる」

ライフ	『カラダ』	『アタマ』
生体高分子レベル	1つの生体高分子	活性中心 (=生体高分子レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の分子のセット〉 ※特に、酵素の活性中心
生体高分子社会レベル	生体高分子の集合体	遺伝子発現回路 (=生体高分子社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“生体高分子レベルのライフ”のセット〉 ※特に、RNA、DNA、調節タンパク質…を含む遺伝子発現回路
細胞レベル	1つの細胞体	細胞核 (=細胞レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“生体高分子社会レベルのライフ”のセット〉 ※特に、分化や増殖(細胞サイクル)を支える遺伝子発現回路を含む細胞核
細胞社会レベル	細胞の集合体	神経中枢 (=細胞社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“細胞レベルのライフ”のセット〉 ※特に、脊髄の反射中枢、脳幹の神経核(呼吸中枢…)、自律神経節、小脳、大脳基底核、辺縁系、脳下垂体、大脳皮質の各葉(前頭葉、側頭葉、後頭葉…)…を含む神経中枢
人間レベル	1つの人体	脳頭《脳神経系》 (=人間レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“細胞社会レベルのライフ”のセット〉 ※特に、感覚、感情、思考、想像、言語、知恵、学習、判断、ユーモア、意志・意欲、ひらめき、創意工夫、創造性、行動…を含む働きをする頭脳
人間社会レベル	人間の集合体	先導的な存在《リーダー》 (=人間社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“人間レベルのライフ”のセット〉 ※特に、元首、首長、司法官、立法官、行政官、経営者、資本家、アーティスト、技術者、学者、作家、メディア…を含むリーダー

「ウン—— 何となくわかるような、わからないような——」

「うん。まず、生体高分子レベルのライフについて見てみるよ。

この生体高分子レベルのライフを支える重要な部分は、一部の分子のセット——特に、酵素の活性中心だよ。この部分は、もし損なわれてしまえば、“タンパク質やRNA”などの酵素としての働きが失われて、生体高分子レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「生体高分子社会レベルのライフを支える重要な部分は、一部の“生体高分子レベルのライフ”のセット——特に、RNA、DNA、調節タンパク質…を含む遺伝子発現回路だよ。この部分は、もし損なわれてしまえば、“タンパク質の合成”や“DNAの合成”に基づく発現や複製が達成できなくなって、生体高分子社会レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「細胞レベルのライフを支える重要な部分は、細胞核、一部の“生体高分子社会レベルのライフ”のセット——特に分化や増殖を決める遺伝子発現回路を含む細胞核だよ。

この細胞核は、もし損なわれてしまえば、“細胞の機能や構造を決める分化”や“細胞数をほどよく保つような増殖”が達成できなくなって、細胞レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「細胞社会レベルのライフを支える重要な部分は、神経中枢、一部

の“細胞レベルのライフ”のセット——特に神経節や神経核…を含む神経中枢だよ。この神経中枢は、もし損なわれてしまえば、例えば、無意識の呼吸や反射的な運動が達成できなくなって細胞社会レベルのライフ、例えば、睡眠状態の人体のライフや植物状態の人体のライフが失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ」

「——うん」

「人間レベルのライフを支える重要な部分は、頭脳、一部の“細胞社会レベルのライフ”のセット——特に、感覚、感情、思考、想像、言語、知恵、学習、判断、創意工夫、行動…を含む働きをする頭脳さ。

この頭脳のさまざまな働きのおかげで、例えば、どうすれば食糧を得られるか、どうすれば危険な動植物を回避できるか、どうすれば衣類によって体温を調節できるかを考えて対応できたり、煙や水を間違っって吸い込まないようにするために、あるいは、声を出して助けを求めるとき呼吸をコントロールできたり、どうやって気持ちや思いを相手に伝えるかを考えて表現できたりする。

だから、この頭脳は、もし損なわれてしまえば、食糧調達、安全保障、体温調節、呼吸の調節、コミュニケーション…が達成できなくなって、人間レベルのライフが失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ。

もちろん、頭脳は、みんなのために、どうすれば貢献できるかを思考するためにも、すぐれたアイデアや有効なツールをタイムリーに創造するためにも、衝動や感情をコントロールしながら情緒を育むためにも役立つわけで——」

「単に生きのびるためだけでなく、よりよく生きるためにも、重要な部分なのね」

「そうだね」

「——じゃあ、次の人間社会レベルのライフを支える重要な部分は何？」と彼女が尋ねた。

「それは、人間社会レベルのライフの中の先導的な存在、一部の“人間レベルのライフ”のセット——特に、元首、首長、司法官、立法官、行政官、経営者、資本家、アーティスト、技術者、学者、作家、メディア…を含むリーダーだよ。

だから、この人間社会レベルのライフの中の先導的な存在は、もし損なわれてしまえば、人間社会レベルのライフの安全、安定、成長、発展、成熟が達成できなくなって、人間社会レベルのライフが失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ」

「ええ、そうね」

「これらのように生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会のライフは、それぞれ、それぞれのライフを支える重要な部分を持っている。

つまり、それぞれのレベルのライフの全体が、それぞれのライフを支える重要な部分のおかげの存在であることが、もう1つのライフの本質なのさ」

「ふーん」

「——ところで、重要な部分がライフを支える過程は、第7フレームの第1ステップから第2ステップに相当しているから、次のように示せる。

『アタマ』

ライフを支える
重要な部分

ライフの全体

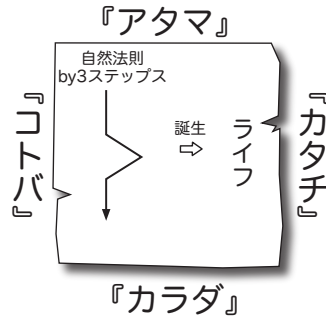
『カラダ』

『アタマ』

『カラダ』

重要部分が支えるライフの営みには、
誕生、成長、発達、発展、成熟、持続
…が含まれる。

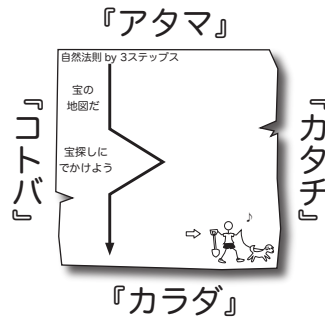
だから、例えば、ライフの誕生の過
程は、厳密には、『カタチ コトバ』の
枠に『カラダ アタマ』の枠も交えて、
次のように示せたことになる。



このことは、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、個
体レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ
…いずれのライフの誕生の過程にもあてはまる」

「——うん」

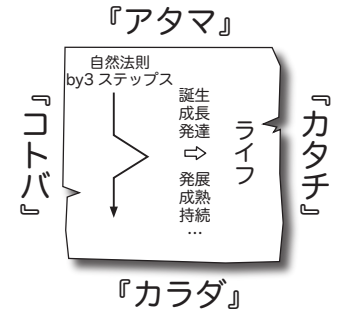
「一方、例えば、“宝の地図だ”から
“宝探しに行こう”と決めて実際に宝
探しに行く過程も、ライフを誕生さ
せていたり、ライフを成長させてい
たりして、『カタチ コトバ』と
『カラダ アタマ』の両方の枠の上で
繰り広げられていたと示せる。



それは、“お腹が空いた”から“何かを食べよう”と決めて実際に
食べる過程、“寒い”から“厚着しよう”と決めて実際に厚着する過
程を含むライフを持続する過程、詩や写真を育んだり、子育てした
りを通じて、成長、発達、成熟する過程、新たな経済活動を含む何
らかの営みを通じて、人間社会が発達、発展する過程も同じさ」

「——ええ、そうね」

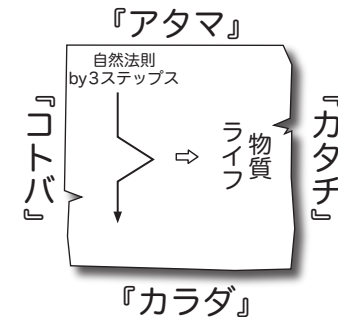
「だから、ライフの誕生、成長、発
達、発達、発展、成熟、持続…いずれも、
『カタチ コトバ カラダ アタマ』
のすべてのおかげだったことになる。



つまり、『コトバ』の方向の“自然法則 by 3ステップ”のおか
けでライフという『カタチ』の方向の存在が存在するという本質と、
それぞれのレベルのライフが自身を支える『アタマ』の方向の重要
部分を持っているという本質、両方の本質のおかげで、ライフの誕
生、成長、発達、発展、成熟、持続…が成立していたのさ。

しかも、これらの説明は、ライフだけでなく、物質——物理学や
化学が扱う対象にも応用できる。

第7フレームの第1ステップから第2ステップまでが『アタマ』
の方向にあって、第3ステップが『カラダ』の方向にあると見なせ
るから——」



232

瑠音は興奮気味に話した。「すごいじゃない！ ついにナズが解けたじゃない！

きつと、これらこそが探求めた“究極の意味”よね？

マクロの社会現象も、等身大の人生現象も、頭脳における思考現象も、心身における感情現象も、身体の生理現象も、ミクロの細胞現象も含むライフ現象も、物理学や化学が扱う物質現象も——

社会学や人文学も、自然科学も——

つまりは、文も理も、共通の土台の上で説明できるんですもの。

すごいことよ。きつと大発見よ！ 早く世の中に発表しましょう

よ！」

「——。——本当に、これらだけで十分なのだろうか？」と僕。

「え？ ——どうして？」

「だって——まだ何か足りないような気がするんだ」

「——え？」

「まだ、ライフのバズルを解く究極のカギではない気がするから」

「——そうね」

「それに、知識アップだけでなく、知恵アップやフルーツ育てにも貢献したいんだ。“世の中のみんなのためになって、みんなが満足できるフルーツ”のような、おいしさにつなげたいんだ。

——山は越えたから、あとは、もうちょいさ」

「うん♪」

233

その日の晩、自分のアパートのベッドの上で仰向けになりながら、あれこれ思いめぐらせた。

これまでは、第7フレームに加え——

第1フレーム『カタチ コトバ カラダ アタマ』のすべて、

第2フレーム『カコ イマ ミライ』の中の『カコ』、

第3フレーム『→』、

第4フレーム『In Out』、

第6フレーム『Off On』を利用した考察が、メインだった。

知恵アップやフルーツ育てにつながることを考えるためには、きつ

と、第5フレーム『Against For』の中の『For』、および、第2フレーム『カコ イマ ミライ』の中の『イマ』や『ミライ』が、より大事になるだろう。

『イマ』——

音楽イン ♪冬 Winter

自然破壊の問題

環境汚染の問題

極端な気候変動の問題

種の絶滅の問題

さまざまな闘争の問題

...

いろいろな問題が、人間社会レベルのライフ、人間レベルのライフを含む全人類の前に山積みになっている。

それでは、『ミライ』はどうなるのだろうか？

はたして、人間社会レベルのライフ、人間レベルのライフを含む
全人類は、このまま長く存続できるのだろうか？

それとも——

・・・

今、みんなのために何ができるのだろうか？

・・・

そして——

ふと、瑠音との会話で登場した“かわいたちくん”ことを思い出
したんだ。

ニホン・カワウソ——

絶滅したと言われている彼ら彼女ら——

・・・

さらに、ランプベリーのことも思い出した。

ランプベリーとともに過ごした幸せな日々——。

ランプベリーのおかげで楽しさが増した思い出たち——。

ランプベリー

・・・

さらに、コンパース一家のことも思い出した。

あの出会いは、いったい、何だったのだろうか？

あの出会いは、何を意味していたのだろうか？

彼ら彼女らは、いったい何者たちだったのだろうか？

・・・

——あっ！

そのとき、ハッとしたんだ。

——そうだ！ 結局、人間社会レベルのライフまでしか僕は見て
いなかったんじゃないか？

——もし、地球上のあらゆる生き物たちを含む、すべてのライフ
を“進化の最前線”と見なしたら、どうなるだろう？

ほかの生き物たち、ほかの種も視野に入れることで初めて見える
何か。人間社会レベルよりも、さらにズーム・アウトすることで
初めて見える何か。…

それらも、きっと、あるはずだ！

この方向づけは、考えが加速的に深まるきっかけとなった。

それなりの成果へと熟すまで、時間は、さほどかからなかった。

音楽終了 ♪冬 Winter

7つのワクワク枠 / The 7 Frames For All Life

みんなのコンパス②

第7フレーム

『  』

【完】